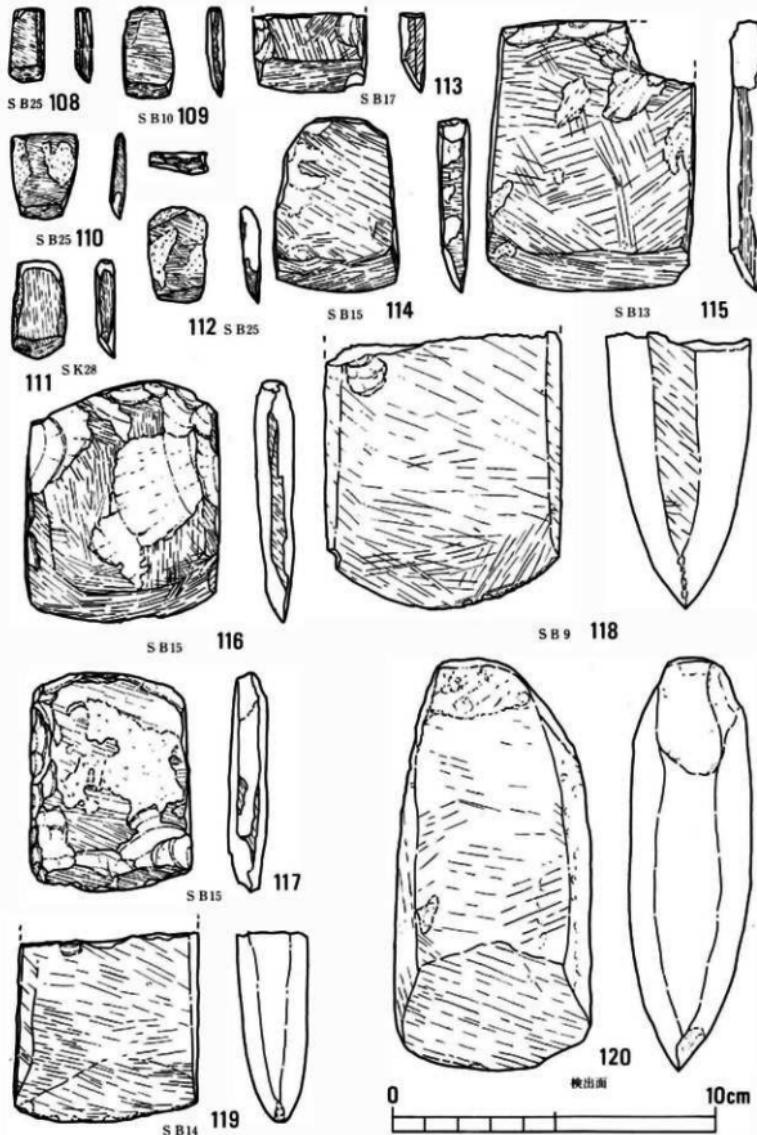


第112图 3次出土石器实测图(6)



第113圖 3次面出土石器實測圖(7)

d 石製品（管玉・石戈）

管 玉 [第114図・121~133]

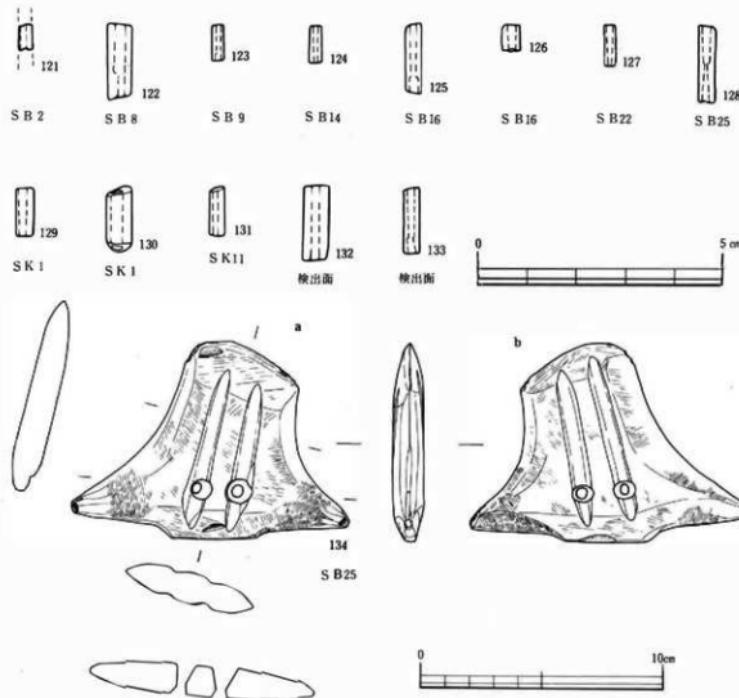
管玉は第3次面の住居跡・土坑・検出面から出土した。総数13点で、8号住居跡の床直上例 [第114図・122] を除き、全て遺構覆土中および単体で出土した。1号土坑からは2点、炭化物層から出土している。16号住居跡出土の濃灰色の例 [第114図・125] の他はすべて緑灰色の碧玉製である。

出土した管玉は大きく2タイプに分かれる。直径2.0~3.0mm、長さ1.0cm未満のタイプ [第114図・121、123、124、127] と直径・長さ共に前者を上回るタイプ [第114図・122、125、128~133] である。将来的には松原遺跡においても、間を埋めるタイプを設定できようが、現状では言及し得ない。

これらの多くは両側穿孔で、表面は面取り痕が明瞭に残るものが多いが、[第114図・132] は丁寧な調整を施している。なお、未製品らしき石材は今回検出されなかった。

石 戈 [第114図・134]

3次面25号住居跡床面より出土した [第74図]。実際には床面より約5.0mmの間層を挟みこんでいるが、これは住居に伴う初源的な堆積層ととらえられるため、25号住居との同時性は立証できよう。



第114図 3次面出土石製品実測図（管玉・石戈）

出土した石戈はいわゆる有柄式で、法量は全長8.15cm、関部幅11.5cm、最大厚1.3cm、残存重量116.6gを測る。基部に対して鋒部が短い短小形式であるが、関部と比すると茎部も短い。身部には直線的に併行する2本の槽があり、両側穿孔された基部の2孔を切り茎部に至っている。身部中央に鏑をもたず、断面はレンズ状を呈している。a面は茶灰褐色、b面は若干緑がかった茶灰褐色である。石材については珪質の凝灰岩である可能性が高いとの指摘を得ている。全体的にごく丁寧な研磨が施されているが、研磨の方向が不規則で、明確な接をもたない。とくに鋒部と茎部の研磨の方向は周辺部のそれに対して明らかに異なっている。このことは石戈製作時の研磨か、欠損後の再研磨かを示していると思われるが、現状での判断は困難である。鋒先端部には刃こぼれが数箇所に認められるが、使用痕というよりは偶発的なものであろう。また関部に斜方向に擦痕が残っており、これが研磨の一様か、あるいは石戈を木製柄に装着する際関部を紐で括り付けた痕跡とも考えられる。後者とすれば石戈の使用例およびその機能と意義に関して興味深い事例である。

第3表 有柄式石戈・長野県出土石戈集成表

No	遺跡名	所在地	出土状況等	形式	材質	参考文献
1	松原遺跡(市)	長野市松代町東寺尾	住居跡床面	有柄短小式	珪質凝灰岩?	
2	巻(洞門)遺跡	新潟県大和郡洞門町巻	表面採集	有柄短小式	粘板岩	後藤・1930、森本・1943、室岡・1988、森本・1943、下条・1982、長沼・1986、
3	鵜川浦遺跡	群馬県高崎市鵜川川底	有柄短小式	溝埋土上層	サヌカイト	堤他・1973、下条・1982、長沼・1986、
4	鴨都波遺跡	奈良県御所市鴨都波所蔵上	有柄短小式			
5	松原遺跡(県)	長野市松代町東寺尾	河川跡埋土	有柄式		長野県理文センターの御教示による。
6	松原遺跡(県)	長野市松代町東寺尾	河川跡埋土	有柄式		長野県理文センターの御教示による。
7	宮洞本村遺跡	松本市宮洞沢村北	表面採集	有柄式		桐原・1963、藤沢・1973、永峯・1988、新谷氏の御教示による。
8	平畠遺跡	松本市並柳	機械出面	有柄式無輪		
9	栗林遺跡	中野市栗林	包含層	有柄式	閃緑岩	樋原・1988
10	平塙平遺跡	長野市安曇平栗台	S K 5一括	有柄式		柴沢・1976、桐原・1963、永峯・1988、
11	笠倉遺跡	下水内郡豊田村笠倉	包含層	有柄式		桐原・1963、永峯・1988
12	東奈良遺跡	大飯郡茶臼山東奈良	包含層	有柄式有輪	粘板岩	奥井・1977、下条・1982、
13	瓜生堂遺跡	大阪府東大阪市	周溝墓盛土	有柄式	石灰質粘板岩	岩崎他・1980、下条・1982、
14	欲賀南遺跡	滋賀県守山市	有柄式			西田・1985、
15	黒沢川右岸遺跡	南安曇郡三郷村		無柄短小?		山田・1988、永峯・1988、
16	宮洞本村遺跡	松本市宮洞二ノ原	表面採集	1孔	粘板岩	藤沢・1973、
17	中島A遺跡	岡谷市	包含層	短小?	頁岩	百瀬・1987、

*鈴長野県埋蔵文化財センターの御教意により、実見させていただいた。

参考文献

- 岩崎二郎他 1980 『瓜生堂』(財) 大阪文化財センター
 奥井哲秀 1977 「東奈良遺跡出土の石戈について」『考古学雑誌』第59卷第2号 日本考古学会
 桐原 健 1963 「信濃出土の磨製石劍について」『信濃』第11卷第12号 信濃史学会
 後藤守一 1930 「上古に於ける越上地方(1)」『考古学雑誌』第20卷第9号 日本考古学会
 笹浪 浩 1976 「弥生時代」『上水内郡誌』歴史編 長野県上水内郡編纂会
 下条信行 1976 「石戈論」『史源』第113輯 九州大学文学部
 下条信行 1982 「武器型石製品の性格—石戈復論」『平安博物館研究紀要』第7輯 平安博物館
 横原長則 1988 「遺物」『栗林畠・浜津ヶ池』中野市教育委員会
 堀 賢昭他 1973 「奈良県御所市鴨都波遺跡出土の石戈」『考古学雑誌』第59卷第3号 日本考古学会
 永峯光一 1988 『長野県史』考古資料編 全1巻(4)構造・遺物 長野県史刊行会
 西田 弘 1985 『高島バイパス新旭町内遺跡発掘調査概要』滋賀県教育委員会
 藤沢宗平 1973 『東筑摩郡松本市塙尻市誌』第2巻歴史上 東筑摩郡松本市塙尻市誌郷土資料編纂室
 百瀬長秀 1987 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1—岡谷市内1』長野県教育委員会
 森本六爾 1943 「東国発見のクリス形石劍」『日本考古学研究』桑名文星堂
 山田瑞穂 1988 『黒沢川右岸遺跡』三郷村教育委員会

V 結 語

今回の調査では、平安時代中期（1次面）と奈良時代末から平安時代前期（2次面）、弥生時代中期後半（3次面）の遺構・遺物を確認した。検出した遺構は整穴住居跡61軒（平安時代35軒、弥生時代26軒）、掘立柱建物跡7棟（平安時代前期）、土坑、井戸跡、平地式住居跡と考えられる環状溝跡13条、溝跡21条、河川跡、性格不明遺構等である。以下、特記すべき事項を掲げ結語とする。

1・2次面検出の住居跡について

今回検出した住居跡は、出土土器等から8世紀末ないしは9世紀初頭から11世紀にかけての遺構であることが確認できた。8世紀末から9世紀代の住居としては7・13・31号住居跡が挙げられる。このうち7号住居跡については、住居の規模が大きいこと、床面・カマドが検出されず乱れていること等から若干の疑問が残る。13号住居跡では須恵器窯〔第83図・100〕や、完形の土師器大型鉢〔第83図・99〕等、時期決定し得る土器が良好に出土している。また31号住居跡は13号住居跡・25号住居跡に切られている。7・31号住居跡からはともに筒形土製品〔第82図・47、第88図・238〕が出土している。11世紀代の住居跡としては19・20・34号住居跡が挙げられる。20・34号住居跡からはともに三脚付火舎〔第85図・152、第89図・272〕が出土している。その他の住居跡に関しては、積極的に時期決定する根拠をもつものは少ないが10世紀代であろう。また17号住居跡・27号住居跡は遺物の残存状況が良好で、17号住居跡ではカマドに据え置かれた土師器甕のなかに土師器杯が存在したこと、27号住居跡ではカマドの左側に土師器甕が埋め置かれていたこと等、住居内におけるカマド使用の一例を提示している。33号住居跡出土の杯〔第88図・243、250〕は土師器と須恵器の違いがありながらも同じ「○」の刻印を有している。このことは土師器と須恵器を同じ集団が製作している可能性を有し、該期における土器製作集団の在り方を考える良好な資料となろう。

各住居とともに北に辺を描え、カマドは住居の北辺か東辺に設置している。一辺約4.0mの正方形を呈す住居平面形が多く、ほぼ規格に則したものといえる。

以上のことから、住居・建物が整然と立並ぶ大規模な集落を想定できよう。

3次面検出の環状溝跡について

環状溝跡については、近年北陸各県にて検出されるようになった建物を囲繞する周溝に近似している。高橋保氏はこの遺構について、新潟県下谷地遺跡にて検出されたピット群を囲繞する連続した土坑群としてとらえ、住居地内の湿気を除くための溝である可能性を指摘されている（高橋1979）。楠正勝氏は弥生時代中期から古墳時代前期までの確認例を検討され、低湿地に立地することや集落の中心的な建物となること、西日本型整穴住居の影響を指摘され、平地式住居に類似したものと位置付けている（楠1989）。南久和氏は溝の平面形態と断面形態による分類を試みられ、遺構の性格について検討されている（南1991）。

今回検出した環状溝跡は、直径約8mの円形または楕円形を呈し、溝の内部に小土坑群を有している。この小土坑群の規則性については、整穴住居跡に切られるものが多数であるため明確でない。溝の深さは一定でなく、排水機能は考えにくい。溝内の遺物等はきわめて少なく、溝内にも土坑が存在している。また今回の調査では確認し得なかったが、溝の中心部に被熱痕（焼土）が存在する可能性が高い。本遺跡は千曲川自然堤防上に位置し、遺跡内においては比較的高所に立地している。

以上のことから、松原遺跡例は北陸各県にて検出されるものと若干の差異を有している。これら遺構の性格としては平地式住居説・倉庫説・玉作り工房説・祭祀遺構説・殯（もがり）屋説等考えられている。しかしながら今回は遺物の僅少さ、豊穴住居との切合い等から不明な点が多く、性格について言及する段階ではない。今後事例の増大を待って検討することとし、とりあえず松原遺跡における環状溝跡は「周溝を有する平地式住居」の可能性を示唆するに留めたい。

3 次面出土の石戈について

弥生時代中期後半に比定される25号住居跡床面から出土した石戈は、いわゆる有柄短小形式と呼ばれるものである。管見による類例として、新潟県巻遺跡例・群馬県鏑川底遺跡例・奈良県鶴都波遺跡例がある〔第3表〕。九州に100例を超える出土例があるが、この有柄短小形式の石戈が東国に限定されることは先史の業績によって明らかである（後藤1930、森本1943）。また有柄式石戈についても、九州には皆無で近畿以東に分布している（下条1976、1982）。下条信行氏は石戈の型式分類と出土・分布状況等から九州型石戈の諸型式（無柄・有茎・無茎）と近畿型石戈（有柄・有茎）を設定された。その中で東国で出土している有柄短小形式の石戈は、近畿型の退行形として捉えられている（下条前掲）。

有柄短小形式の石戈は、その性格・存在理由等を検討するに非常に大きな問題を内包している。(1) 裂部短小形式は完形品なのか再生品なのか。これには多く集落遺跡から出土する理由や、性格等に大きく関与している。(2) 分布状況。これは九州との量的格差、鍋を有する有柄式石戈との関係、生産と流通、といった問題に絡んでくる。いずれにしても資料の稀少性も手伝い不明な点の多かったこれら諸問題が、最近東国はもちろん長野県においても石戈の出土数が増加していることにより、近い将来明らかとなろう。

以上、調査に関して気付いた点について概述し、関連する諸問題を列挙した。松原遺跡の本格的発掘調査は端を発したばかりであるが、今後開発事業の活発化に伴い発掘調査が激増するものと思われる。高速道本線部分を調査している（財）長野県埋蔵文化財センターの成果等資料の増大をふまえ、大規模集落遺跡たる松原遺跡の性格を考えてゆかねばなるまい。以後の調査に期待するとともに、現時点での総括としたい。

引用・参考文献

- 桐原 健 1966 「信濃国出土青銅器の性格について」『信濃』第18巻第4号 信濃史学会
楠 正勝 1989 『金沢市西念・南新保遺跡II』金沢市文化財紀要 77 金沢市教育委員会
高橋 保 1979 『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19 下谷地遺跡』新潟県教育委員会
千野 浩 1986 「北信濃における中期後半の様相」『東日本における中期後半の弥生土器』第7回三県シンポジウム資料
長野県教育委員会 1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3 吉田川西遺跡』
長野市教育委員会 1986 『浅川扇状地遺跡群・牛込バイパスB-C-D地点』長野市の埋蔵文化財第17集
長野市教育委員会 1987 『三輪遺跡(2)』長野市の埋蔵文化財第20集
原 明芳 1989 「松原遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報6』長野県埋蔵文化財センター
松本市教育委員会 1990 『松本市泉町遺跡』松本市文化財調査報告No82
南 久和 1991 『金沢市新保本町東遺跡』金沢市文化財紀要 85 金沢市教育委員会
美濃古窯研究会 1988 『美濃の古陶』美濃古窯研究会会報No2
森嶋 総 1978 『更級塙科地方誌』第2巻原始古代中世編



調査区遠景（東から）

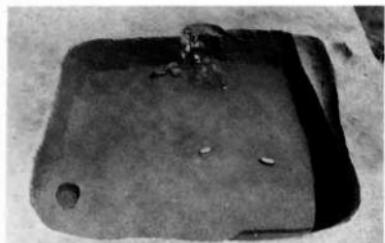


1次面〔平安時代遺構面〕全景（気球写真、上が西）



1次面全景（北から）

第2写真図版



1次面1号住居跡全景(西から)



1次面1号住居跡カマド近景(西から)



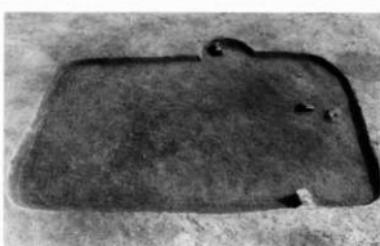
1次面2号住居跡全景(南から)



1次面2号住居跡カマド近景(南から)



1次面3号住居跡全景(南から)



1次面4号住居跡全景(北から)



1次面5号住居跡全景(南から)



1次面6号住居跡全景(南から)



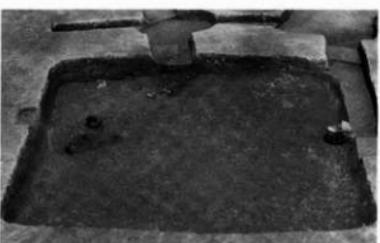
1次面7号住居跡全景(南から)



1次面8号住居跡全景(南から)



1次面9号住居跡全景(南から)



1次面10号住居跡全景(南から)



1次面11号住居跡全景(南から)



1次面12号住居跡全景(南から)

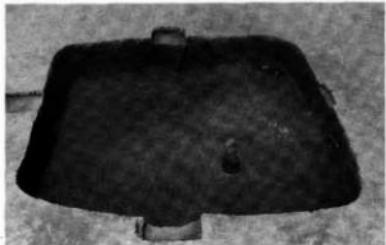


1次面13号住居跡全景(南から)

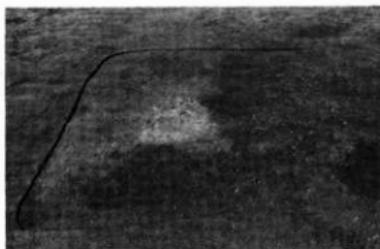


1次面14号住居跡全景(南から)

第4写真図版



1次面15号住居跡全景(南から)



1次面16号住居跡全景(南から)



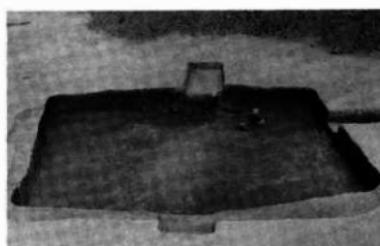
1次面17号住居跡全景(西から)



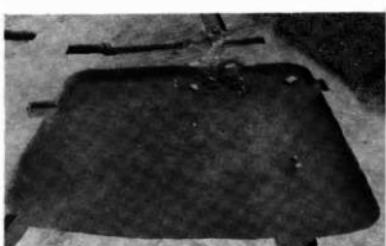
1次面17号住居跡カマド付近遺物出土状況(上が東)



1次面17号住居跡カマド近景(上が東)



1次面18号住居跡全景(西から)



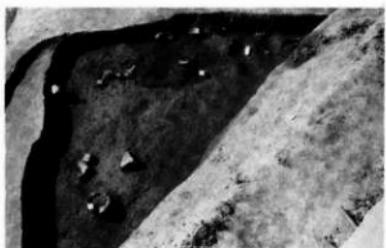
1次面19号住居跡全景(西から)



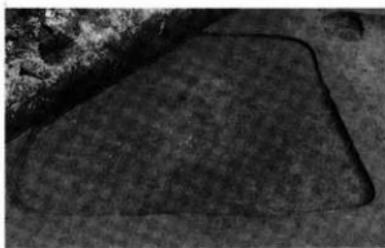
1次面20号住居跡全景(南から)



2次面【奈良・平安時代遺構面】全景(北から)



2次面21号住居跡全景(南から)



2次面22号住居跡全景(南から)



2次面24号住居跡全景(南から)



2次面25号住居跡全景(南から)

第6写真図版



2次面26号住居跡全景(西から)



2次面27号住居跡全景(西から)



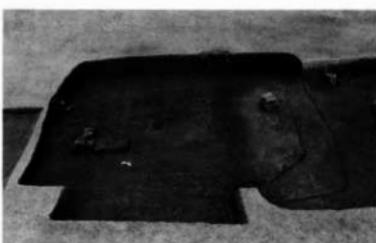
2次面27号住居跡カマド付近遺物出土状況(南から)



2次面27号住居跡カマド近景(上から東)



2次面28号住居跡全景(南から)



2次面30号住居跡全景(西から)



2次面31号住居跡全景(南から)



2次面32号住居跡全景(南から)

第7写真図版



9・11・17・28・32号住居跡切り合ひ状況(南から)



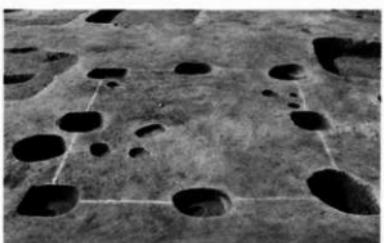
2次面33号住居跡全景(南東から)



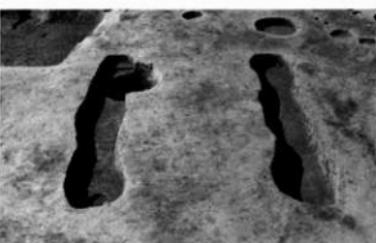
2次面34号住居跡全景(西から)



2次面1号掘立柱建物跡全景(南から)



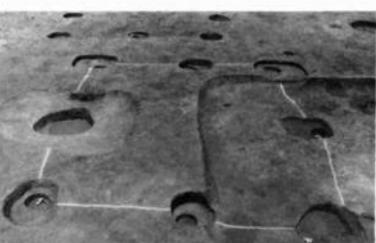
2次面2号掘立柱建物跡全景(南から)



2次面3号掘立柱建物跡全景(南から)



2次面4号掘立柱建物跡全景(南から)



2次面5号掘立柱建物跡全景(南から)

第8写真図版



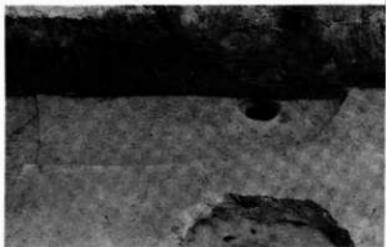
3次面〔弥生時代中期遺構面〕全景(気球写真、上が西)



3次面調査区北側全景(気球写真、上が西)



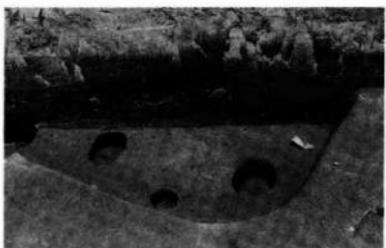
3次面全景(北から)



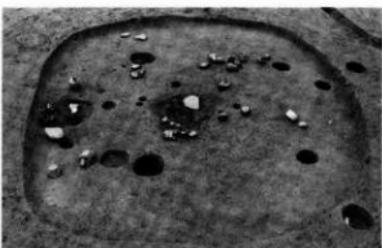
3次面 1号住居跡全景(北西から)



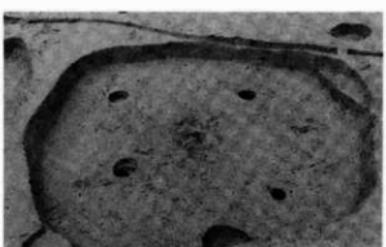
3次面 2号住居跡全景(上が南)



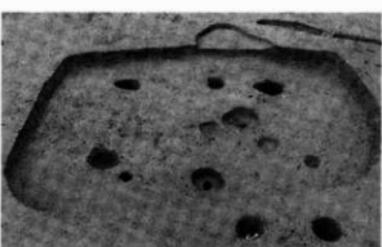
3次面 3号住居跡全景(南西から)



3次面 5号住居跡全景(南東から)



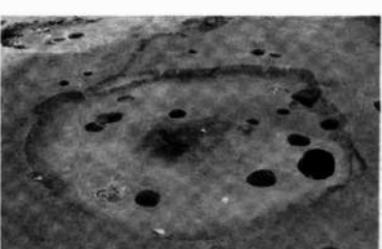
3次面 6号住居跡全景(南から)



3次面 7号住居跡全景(南東から)



3次面 8号住居跡全景(南から)



3次面 9号住居跡全景(南西から)

第10写真図版



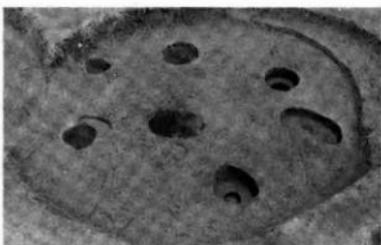
3次面10号住居跡全景(南から)



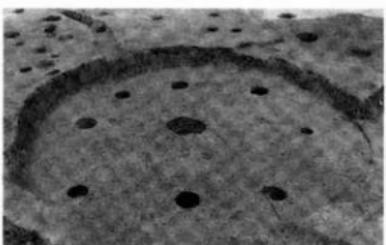
3次面12号住居跡全景(南から)



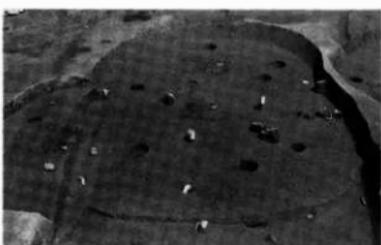
3次面13号住居跡全景(西から)



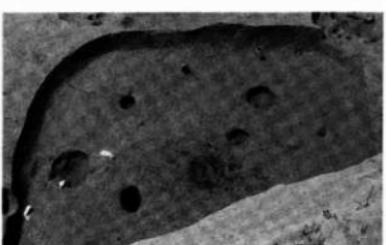
3次面14号住居跡全景(南西から)



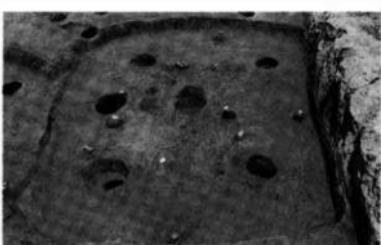
3次面15号住居跡全景(南西から)



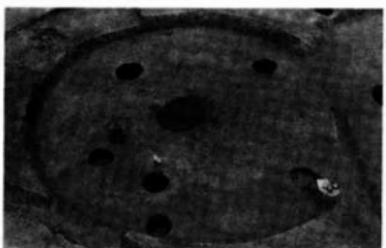
3次面16号住居跡全景(南東から)



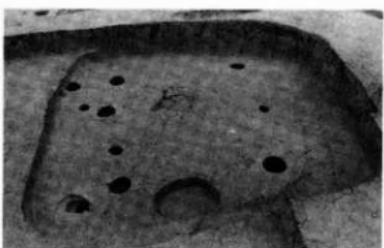
3次面17号住居跡全景(南東から)



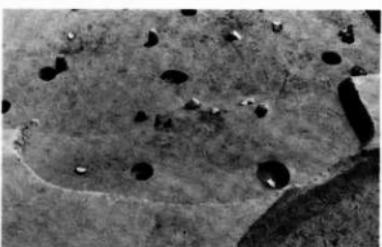
3次面18号住居跡全景(南西から)



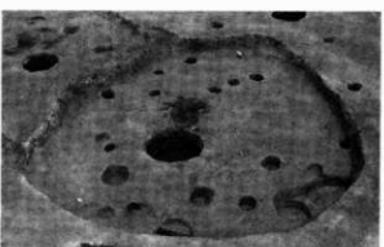
3次面19号住居跡全景(南西から)



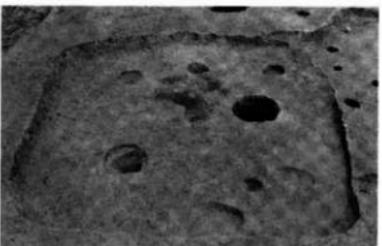
3次面20号住居跡全景(南西から)



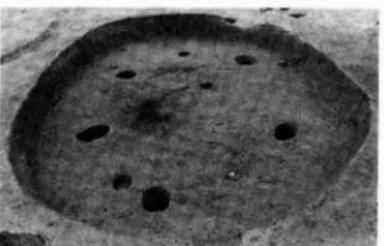
3次面21号住居跡全景(南西から)



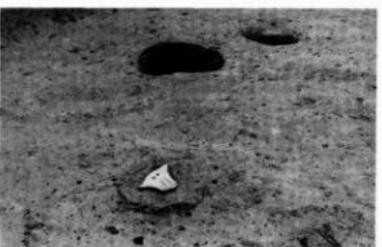
3次面22号住居跡全景(南から)



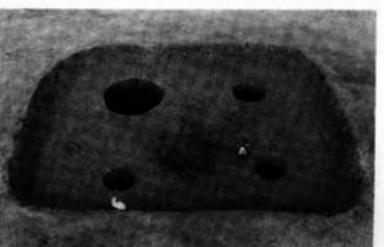
3次面24号住居跡全景(南西から)



3次面25号住居跡全景(南から)

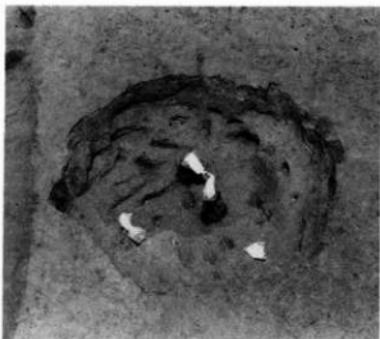


3次面25号住居跡床面遺物出土状況(東から)



3次面26号住居跡全景(南西から)

第12写真図版



3次面1号土坑全景(南から)



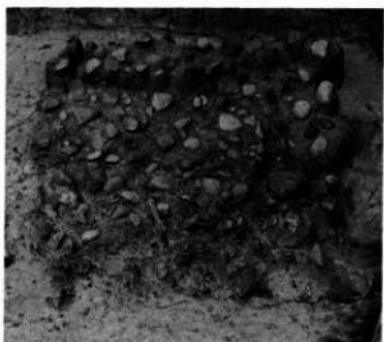
3次面環状溝跡群(南東から)



3次面1号性格不明遺構全景(北東から)



3次面1号性格不明遺構近景(北から)



3次面2号性格不明遺構全景(西から)



3次面2号性格不明遺構近景(西から)

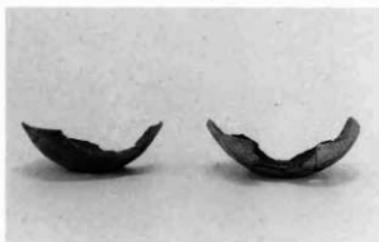
1次面 1号住居跡
出土土器集合写真



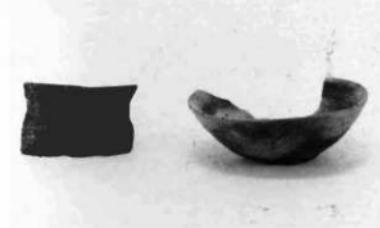
1次面 3号住居跡出土土器集合写真



1次面 4号住居跡出土土器集合写真



1次面 5号住居跡出土土器集合写真

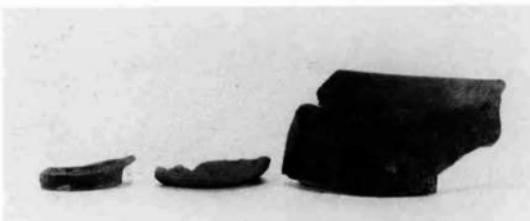


1次面 6号住居跡
出土土器集合写真





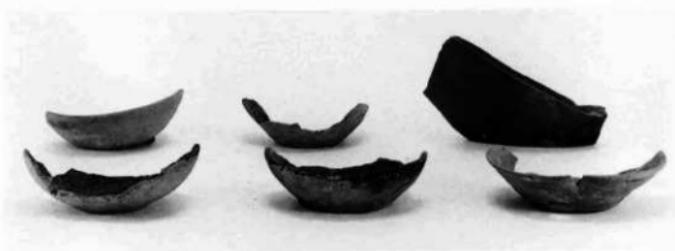
1次面7号住居跡出土土器集合写真



1次面8号住居跡
出土土器集合写真



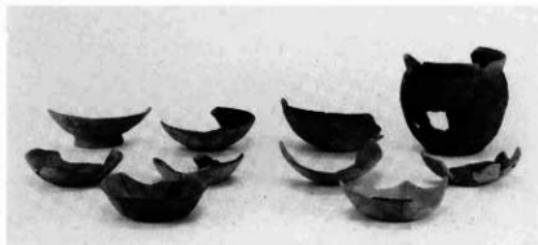
1次面9号住居跡
出土土器集合写真



1次面10号住居跡出土土器集合写真



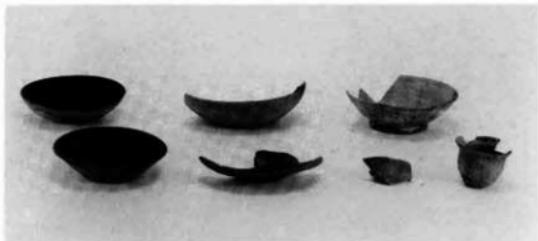
1次面11号住居跡出土土器集合写真



1次面12号住居跡
出土土器集合写真



1次面13号住居跡出土土器集合写真

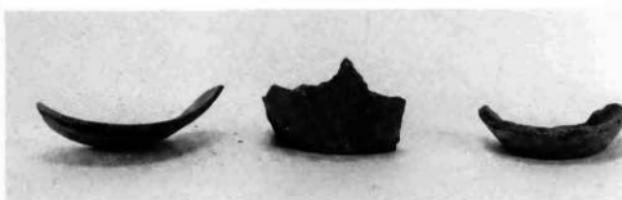


1次面15号住居跡
出土土器集合写真

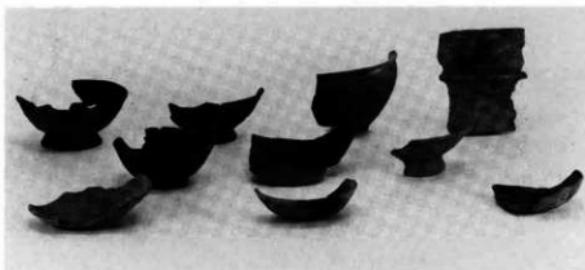
第16写真図版



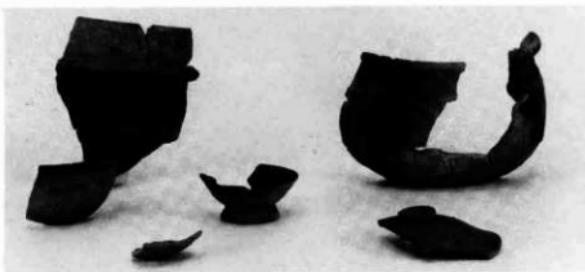
1次面17号住居跡
出土土器集合写真



1次面18号住居跡出土土器集合写真



1次面19号住居跡
出土土器集合写真



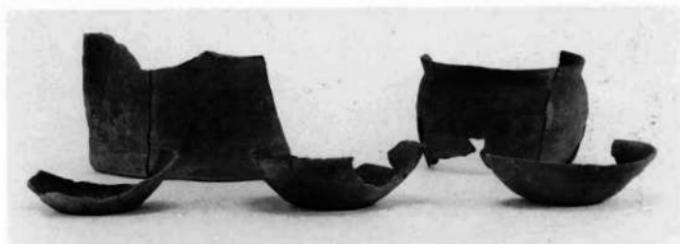
1次面20号住居跡
出土土器集合写真



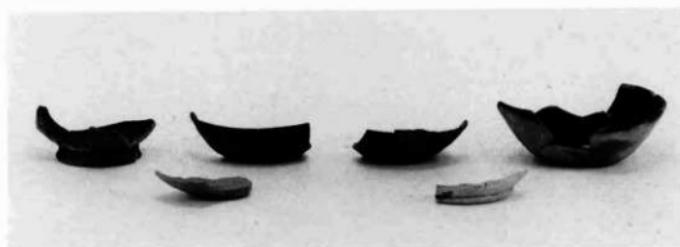
2次面21号住居跡
出土土器集合写真



2次面24号住居跡出土土器集合写真



2次面25号住居跡出土土器集合写真



2次面26号住居跡出土土器集合写真

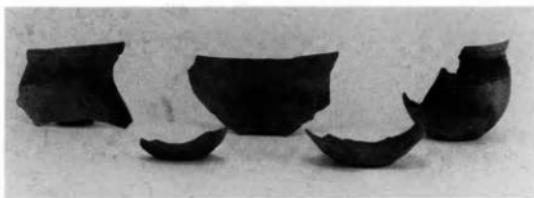
第18写真図版



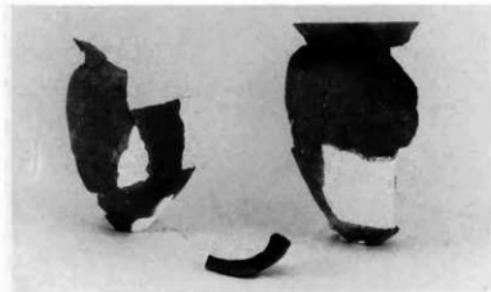
2次面27号住居跡
出土土器集合写真



2次面28号住居跡
出土土器集合写真



2次面29号住居跡
出土土器集合写真



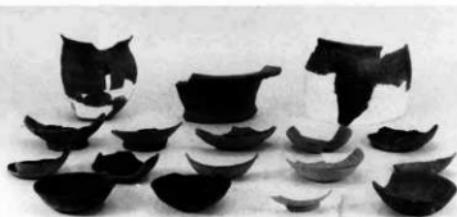
2次面30号住居跡
出土土器集合写真



2次面31号住居跡出土土器集合写真



2次面32号住居跡出土土器写真



2次面33号住居跡出土土器集合写真



2次面34号住居跡
出土土器集合写真



2次面35号住居跡出土土器集合写真

第20写真図版



3次面 1号住居跡出土土器写真



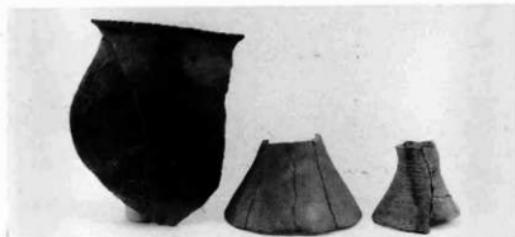
3次面 3号住居跡出土土器集合写真



3次面 2号住居跡出土土器集合写真



3次面 5号住居跡
出土土器集合写真



3次面 6号住居跡
出土土器集合写真



3次面7号住居跡出土土器集合写真



3次面8号住居跡出土土器集合写真



3次面10号住居跡出土土器写真



3次面11号住居跡出土土器写真

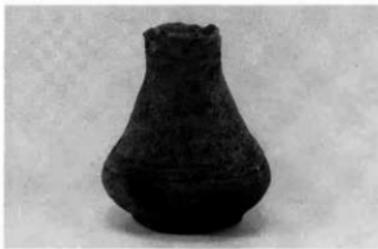


3次面12号住居跡出土土器集合写真

第22写真図版



3次面13号住居跡出土土器写真



3次面17号住居跡出土土器写真



3次面15号住居跡出土土器集合写真

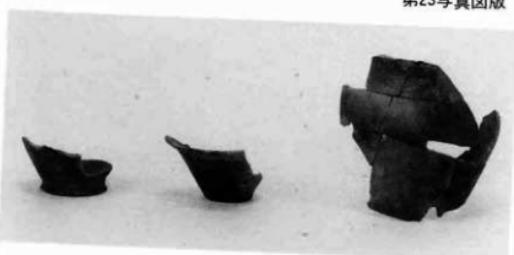


3次面16号住居跡
出土土器集合写真

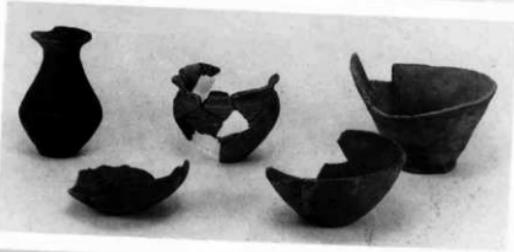


3次面18号住居跡出土土器集合写真

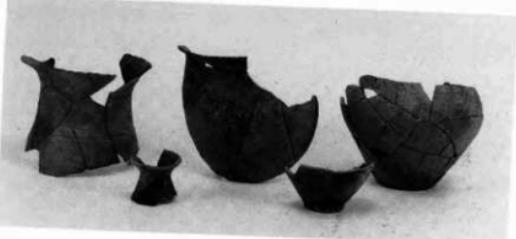
3次面19号住居跡
出土土器集合写真



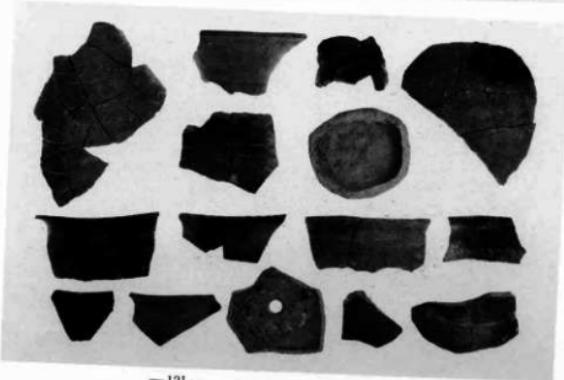
3次面20号住居跡
出土土器集合写真



3次面21号住居跡
出土土器集合写真



3次面25号住居跡
出土土器集合写真



第24写真図版



3次面26号住居跡出土土器集合写真



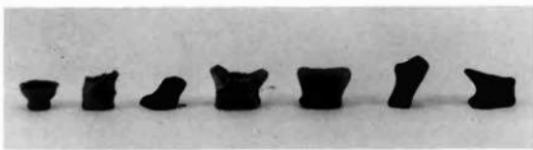
3次面28号土坑出土土器写真



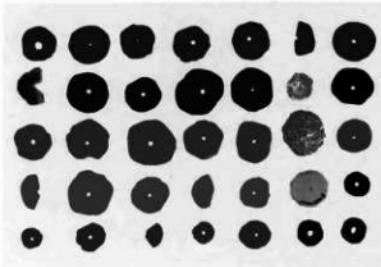
3次面河川跡
出土土器写真



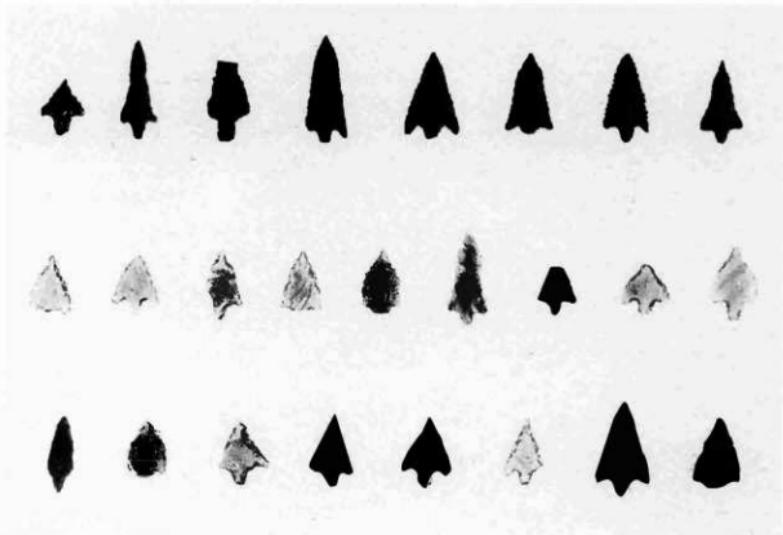
3次面1号性格不明遺構
出土土器写真



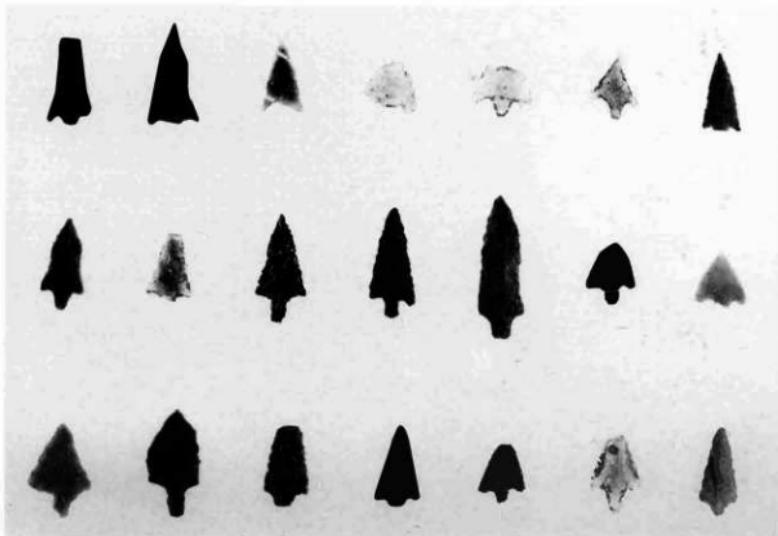
3次面出土
ミニチュア土器写真



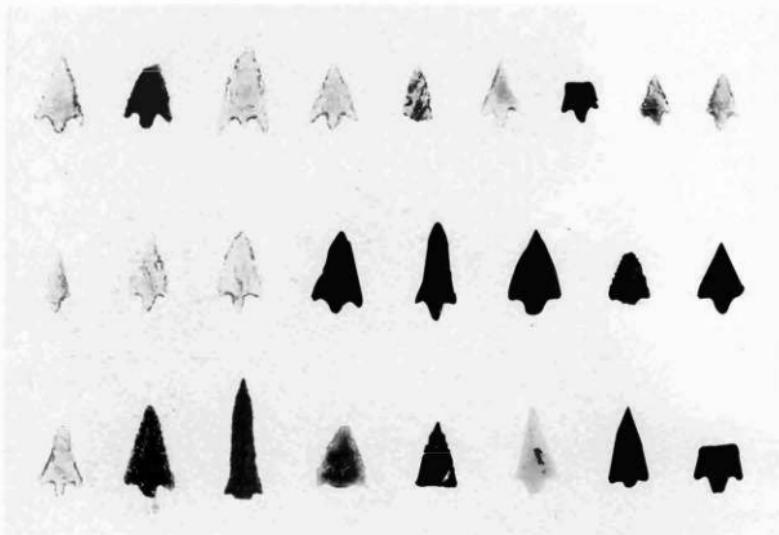
3次面出土有孔円板・円板状土製品写真



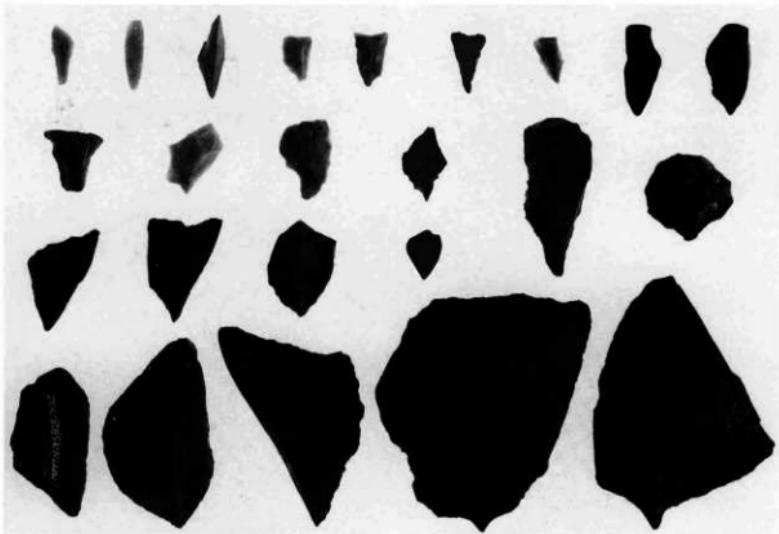
3次面出土石器写真(1) 打製石鏃 (Scale=2:3)



3次面出土石器写真(2) 打製石鏃 (Scale=2:3)



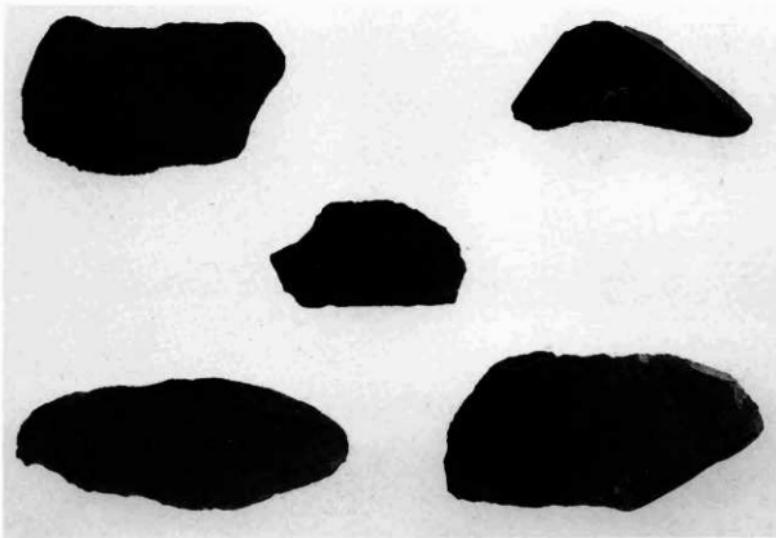
3次面出土石器写真(3) 打製石鏃 (Scale 2:3)



3次面出土石器写真(4) 石 錐 (Scale 2:3)

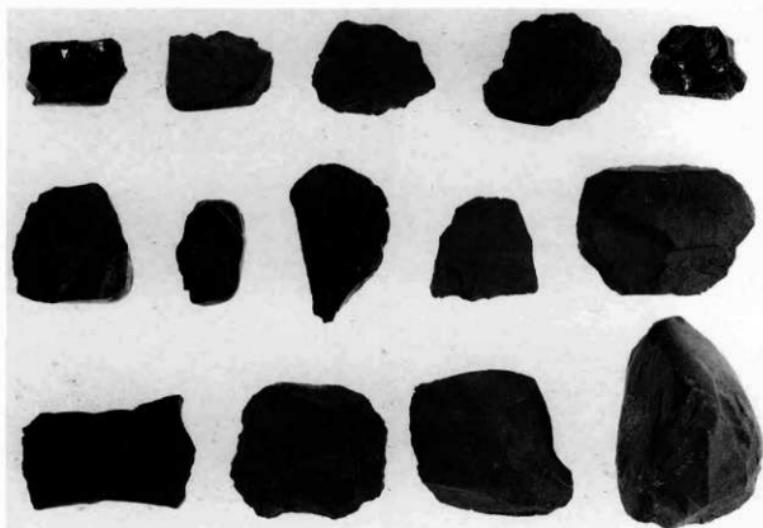


3次面出土石器写真(5) 楔形石器・スクレイパー (Scale=1:1)



3次面出土石器写真(6) 部分磨製石器 (Scale=1:2)

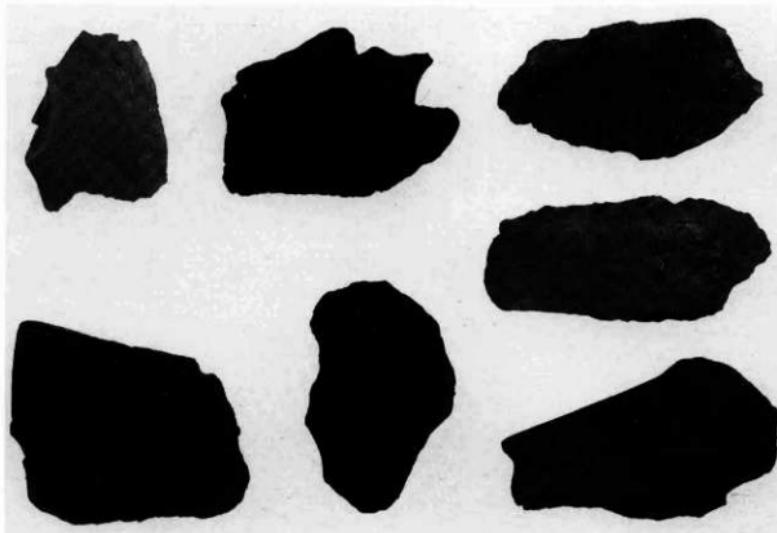
第28写真図版



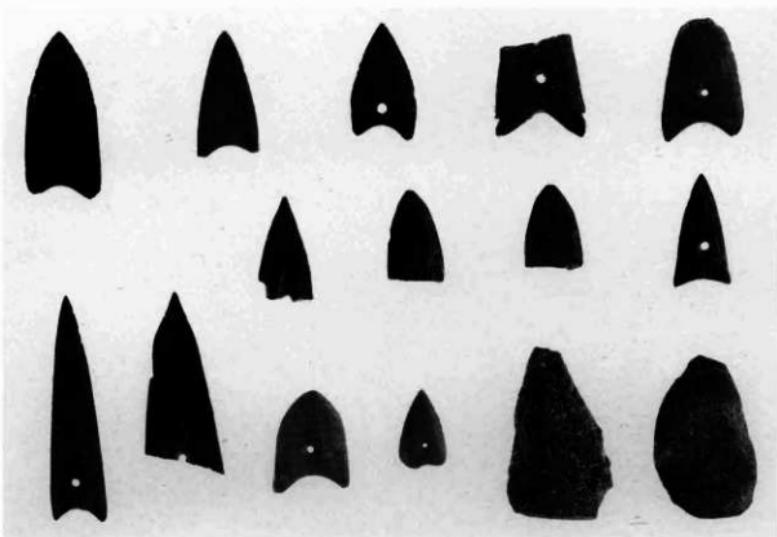
3次面出土石器写真(7) 石核 (Scale 1:2)



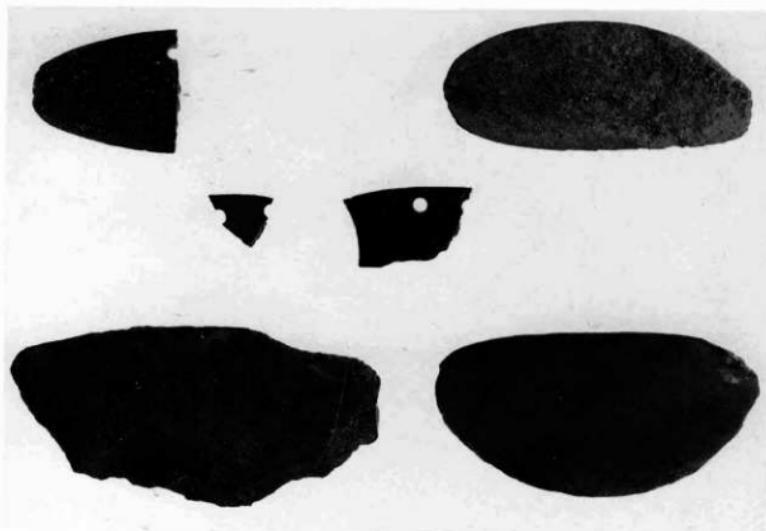
3次面出土石器写真(8) 二次加工痕有制片 (Scale 2:3)



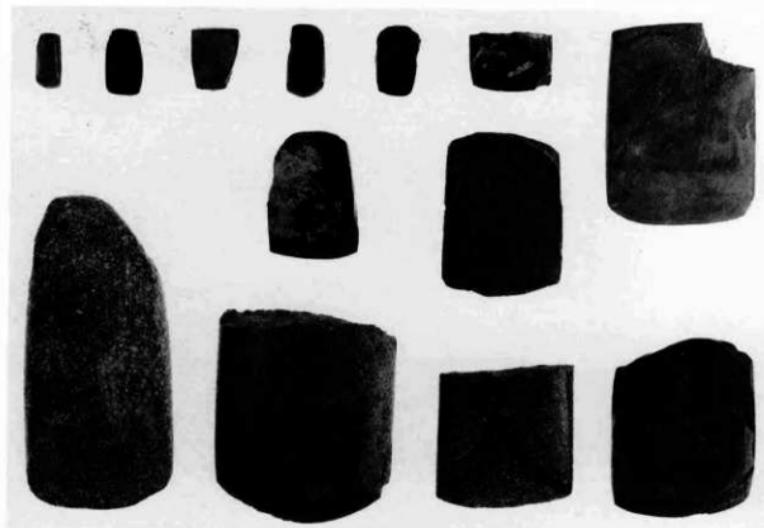
3次面出土石器写真(9) 使用痕有制片 (Scale 1 : 2)



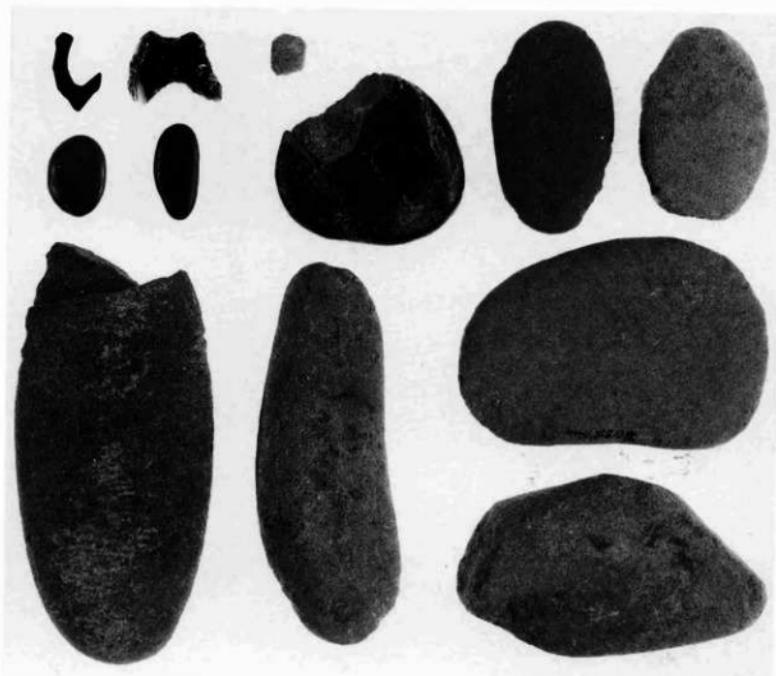
3次面出土石器写真(10) 磨製石鏃 (Scale 1 : 1)



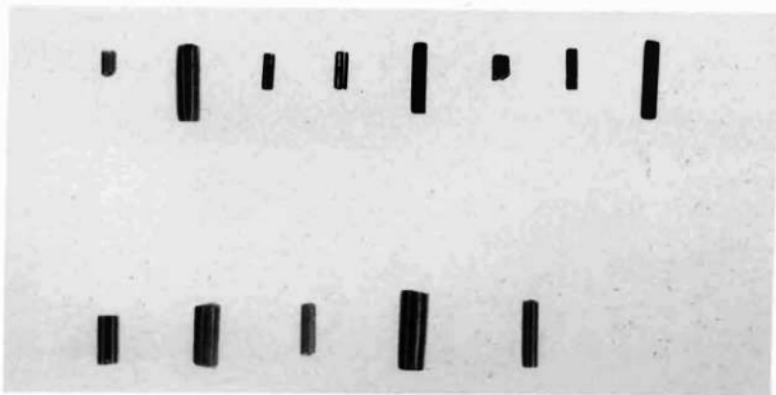
3次面出土石器写真(11) 石包丁 (Scale=1:2)



3次面出土石器写真(12) 磨製石斧 (Scale=1:2)



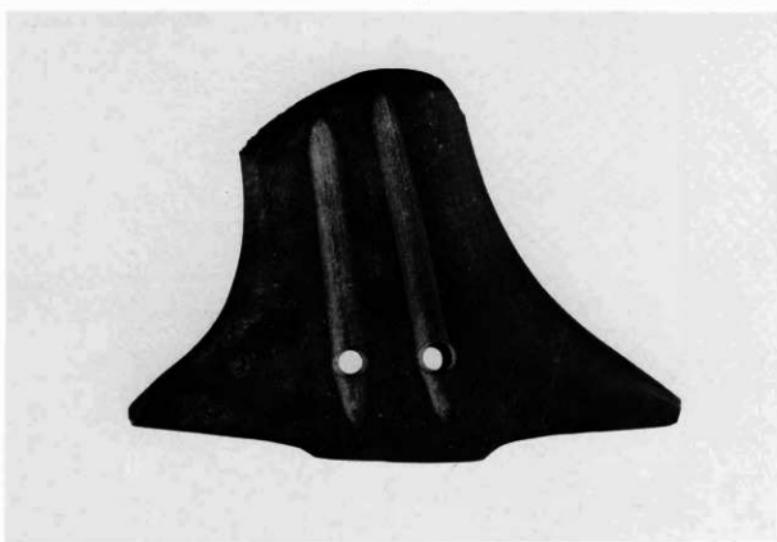
3次面出土石製品写真(1) (Scale≈2:3)



3次面出土石製品写真(2) 管玉 (Scale≈1:1)



a 面



b 面

3次面出土石製品写真(3) 石 戈 (Scale w1:1)

- 長野市の埋蔵文化財 第1集 「信濃長原古墳群」
 " 第2集 「浅川西条」
 " 第3集 「中村遺跡」
 " 第4集 「塙崎遺跡群」
 " 第5集 「塙崎遺跡群(2)」
 " 第6集 「三輪遺跡—付水内坐一元神社遺跡」
 " 第7集 「田中沖遺跡」
 " 第8集 「篠ノ井遺跡群」
 " 第9集 「四ツ屋遺跡(第1～3次)・惣間遺跡・塙崎遺跡群(3)」
 " 第10集 「湯谷古墳群・長札山古墳群・駒沢新町遺跡」
 " 第11集 「箱清水遺跡・大峰遺跡・大清水遺跡」
 " 第12集 「浅川扇状地遺跡群—牛札バイパスA・E地点遺跡—」
 " 第13集 「浅川扇状地遺跡群迎田遺跡・川田条里的遺構・石川条里的遺構」
 " 第14集 「石川条里的遺構(2)・上駒沢遺跡」
 " 第15集 「箱清水遺跡(2)」
 " 第16集 「石川条里的遺構(3)・(付上駒沢遺跡)」
 " 第17集 「浅川扇状地遺跡群—牛札バイパスB・C・D地点—」
 " 第18集 「塙崎遺跡群IV—市道松筋—小田井神社地点遺跡—」
 " 第19集 「土口将軍塚墳—重要遺跡確認緊急調査—」
 " 第20集 「三輪遺跡(2)」
 " 第21集 「芹田小学校遺跡」
 " 第22集 「長野吉田高校グランド遺跡」
 " 第23集 「横田遺跡群 富士宮遺跡」
 " 第24集 「塙崎遺跡群V 殿屋敷遺跡」
 " 第25集 「南川向遺跡」
 " 第26集 「東番場遺跡」
 " 第27集 「小栄見城跡」
 " 第28集 「宮崎遺跡」
 " 第29集 「浅川端遺跡」
 " 第30集 「地附山古墳群」
 " 第31集 「町川田遺跡」
 " 第32集 「中条遺跡」
 " 第33集 「鶴前遺跡・塙崎城跡」
 " 第34集 「石川条里遺跡(4)」
 " 第35集 「篠ノ井遺跡群II」
 " 第36集 「尻地遺跡II」
 " 第37集 「篠ノ井遺跡群III」
 " 第38集 「乗田城跡・下宇木遺跡・三輪遺跡(3)」
 " 第39集 「塙崎遺跡群(6)・石川条里遺跡(5)」

長野市の埋蔵文化財第40集

松原 遺跡

平成3年3月25日 印刷

平成3年3月31日 発行

編集 長野市教育委員会

発行 長野市埋蔵文化財センター

印刷 はおずき書籍株式会社